資料４

第１回審議会でのポイント

人口減少

・人口減少を避けるのはおそらく不可能、そういう中でまちをどう作っていくか。
・市に戻ってくる人を大事に考えたい。
・市から出て行った若者が、若いなりに都会を見て感じた部分を探る必要があるのではないか。
・市から離れてふと地元を思い出した時に思い出すのは、家族、地元の雰囲気、近所の人など、人とのつながりを思い出すのではないか。
・人が減ってしまった成熟社会で、どのように「幸せ」や「充実」のようなものを求めていくのかが重要。それには人が重要になってくる。

移住・定住

・ただ人を集めればいいというわけではなく、どんなまちをつくって、そこにどんな人に住んでもらうかが重要ではないか。
・住んだ後で、建物だけが残るまちではだめ。
・農村地域であるため、農業従事者と移住者との調和のとれたまちづくりが必要。
・生活の満足度を高めるということが非常に重要ではないか。

子育て・教育

・子育てをしながら、子育てを通して女性がどう自己実現をしていくかが重要。
・子育ての中で女性がどんな風に世界を作っていくのか。
・非婚の出生をもっとみんなで支える、認めるという社会づくりが必要。
・どんな境遇でも幸せがつかめるような社会環境や人間の意識を作っていく必要がある。
・子どもを社会で育てるという雰囲気づくり。
・教育熱心な親たちにとっては、教育に強みを持っている地域には魅力を感じる。
・子どもたちへの教育を徹底しないと、ますます人がいなくなるのではないか。
・安心して住めるところ、安心して子育てができるところ。

地域づくり

・若い人が集まれるような場所づくりが必要ではないか。
・那須塩原駅前の開発をどのように進めるのか。
・外部に対して発信できるような地域づくりを。

農業

・農業の担い手が喜んで戻ってきて農家を営む、または新規就農する方、都会からきて就農する方が心配なく農業ができる環境づくりが必要。
・一度外に出て、那須塩原市は酪農が盛んで、日本の中でもいいところだと認識した時に、

そこで自分も農業をやりたいと思った。
・農業の現場における若者の未婚率の高さが問題。
・植物工場の誘致は、一次産業の安定化、維持継続するということにつながるのではないか。

観光
・もう一度来たいと思わせる観光地づくりが必要ではないか。
・まずは足を運んでもらうために何をするか。

雇用
・厳しさは見られるものの、雇用の改善は進んでいる。
・新幹線通勤＋在宅勤務で人を呼べるのではないか。
・大企業が地元企業と交流し、技術の伝達や商品開発を行うことが大切。そこで育った人たちが創業して、地域活性化に結びついていくのではないか。

自然
・自然環境の保全。メガソーラーへの対応が必要ではないか。

那須塩原の魅力
・適度に都会に近くて、自然が豊かに残っており、適度に産業もあるとバランスのいいまちではないか。
・ほどよく田舎で、ほどよく都市部の機能を有している。
・魅力あるまちの裏付けのために、しっかりとした都市計画を。
・何でもできますよというわけではないが、やる気になればこういうこともできるというところではないか。

第１次那須塩原市総合計画におけるポイント

まちづくりの基本理念（４つのキーワード）

◆市民との協働によるまちづくり

まちづくりの主役である市民と行政が、ともに力を合わせて進める協働のまちづくりを推進します

◆効率的・効果的な行財政運営による自立したまちづくり

効率的・効果的な行財政運営により、地方分権・住民自治の時代に対応できる自立したまちづくりを推進します。

◆安全に、安心して暮らせるまちづくり

防災・防犯体制の強化や日常の暮らしを支える社会資本の整備、保健福祉対策の充実により、安全に、安心して暮らせるまちづくりを推進します。

◆個性が輝くまちづくり

豊かな自然環境や多彩な産業などの地域資源の有効活用と、市民一人ひとりがいきいきと暮らせる地域社会の形成を図り、個性が輝くまちづくりを推進します。

市の将来像

「人と自然がふれあう　やすらぎのまち　那須塩原」

本市には、広大な那須野が原に育まれた緑と那珂川、箒川の清らかな流れに代表される美しく豊かな自然があります。

わたしたち市民一人ひとりは、このあふれる緑や自然を大切にしながら、安心して暮らすことができ、夢や希望をもって「やすらぎ」を感じることができるまちを目指すために、那須塩原市の将来像を「人と自然がふれあう　やすらぎのまち　那須塩原」とします。

後期基本計画における基本方針

基本理念に基づく持続可能な共生社会の構築

～“大好き那須塩原”魅力あふれるまちづくり～